

# ぶらり旅

福井県おおい町名田庄編

陰陽道と  
暦のふるさと

名田庄納田終



「若狭國名田庄を泰山府君祭料知行地とする」

泰山府君とは、中国の「泰山信仰」とも結びついている「陰陽道」の主祭神。天平八(七三六)年、聖武天皇の御倫旨に始まつた福井県名田庄と陰陽道の宗家・土御門(安倍)家との関わりは、千年以上の時を経た今も、深くこの地に根付いています。

今回のぶらり旅は、土御門家の郷・福井県おおい町名田庄を訪ねました。



名田庄には、陰陽道のさまざまな祭祀が執り行われた史跡や、土御門家の墓所などが残っています。

今年の九月九日(くくりの日)、鹿児島県霧島で、長典男さん、高麗加緒里さん、滝沢泰平さんとの「年三ヶ月に及んだ『祈りの旅』が終わってから、初となる旅が今回の福井県おおい町名田庄。

陰陽道の宗家である土御門(安倍)家の本拠地です。

「陰陽道」とは、古代中国の思想で、五つの惑星(木火土金水)と太陽や月のリズム、四季のサイクルなどによって、あらゆるもの的方向性を予測し、よりよい行動のための指針を求めていくこうとする「易」の考え方。

日本には五三年に百濟からもたらされたと云われています。

その後、陰陽道の宗家となつた土御門(安倍)家が、長らく朝廷の中で特別な地位を与えられていたことからも、当時いかにたいせつな学問であったかが推測できます。

日本には五三年に百濟からもたらされたと云われています。

「鳴海さんは、千年ほどまえ、一緒に

陰陽師をしていましたね」

みえないものをみる達人で、元高野僧の長典男さんのひと言から、過去生での体験を知り、まるで導かれるよう

にして、福井県敦賀市の晴明神社を訪れたのが一年三ヶ月前の「祈りの旅」初日のこと。

六畳間ほどの小さな神社が、京都、大阪と共に「三大晴明神社」の一つだつことから、安倍晴明と福井県が深いご縁でつながっていたことを、この時初めて知つたのでした。

「当時は、ライバル関係でした。鳴海さんが朝廷を護る安倍晴明派で、私は蘆屋道満派。お互いに五芒星と六芒星をシンボルにして闘つていたようです。加緒里さんは、その中間派の陰陽師で、泰平さんが時代を少し違えて朝廷の人。お互に立場の違う四人が、時を経てこうして旅をしていることこそ、新しい時代のひな形なかもしれませんね」

長さんが解説してくれた当時の関係性を聴きながら、新しい時代を象徴するキーワード「融合・統合・調和」が、よりはつきりとしたイメージになりました。

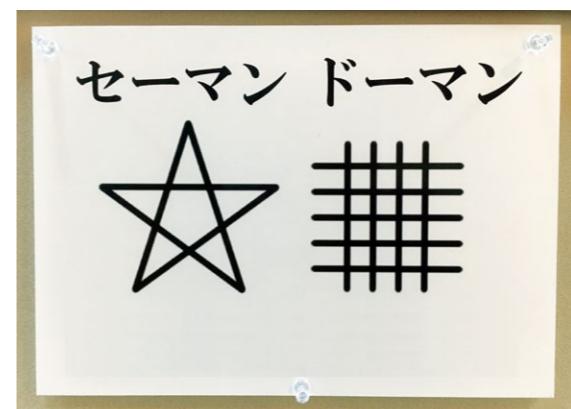
晴明神社の御神体は、晴明が秘術を施す際に用いたと云われる「祈念石」。



二〇一五年夏から始まった「祈りの旅」初日に導かれるように訪れた晴明神社にて。向かって左から、滝沢泰平さん、鳴海周平、高麗加緒里さん、長典男さん。

その形は、五芒星と六芒星を組み合わせた、まさに「融合・統合・調和」のひな形そのものでした。

土御門家の本拠地で、時を超えて届けられる安倍晴明の想いを感じながら「新しい時代」の到来をあらためて確信できた旅となつたのでした。



結界としても用いられる「セーマン」と「ドーマン」。当時ライバル同士だったという安倍晴明と蘆屋道満の名前に由来していると云われています。